

ヘルパー研修会

7月30日(水)、Xia・わ・せ介護代表で東京都認知症介護指導者の安藤文代さんを講師に迎えて「認知症になっても自分らしく生きる支援」をテーマに研修会を実施しました。

また、10月18日(土)には戸谷静夫さんを講師に迎えて「視覚障害者の支援」をテーマに実施。当事者であり、特別支援学校の教員として肢体不自由児の身体機能訓練に長年携わる講師の話は、障害福祉サービスを提供するヘルパーにとって、大きな学びとなりました。両日とも、はせさんず1階にて。



「視覚障害者の支援」研修会の様子

移送サービスとライドシェア

はせさんずの移送サービス(福祉有償運送)では、①担い手である活動者の不足や高齢化、②補助金の不足や運営資金の不足、③制度の位置づけのあいまいさに悩んでいます。高齢者や障害のある人が、公共機関を利用することが困難な人に、移動の自由を提供できるように、移動の手である活動者が可能な時間、最大限の活動ができるよう、コーディネートは日々調整に努力しています。

ライドシェアが推進されるに伴い、福祉有償運送に対する規制や事務負担が軽減されることを希望します。

同じように自家用車を活用するライドシェアとはどう違うのか、下表で参照ください。

項目	移送サービス	ライドシェア
主目的	移動困難者(高齢者・障害者)に限定した福祉目的の移動支援	地域交通の担い手・移動の不足解消
使用車両	自家用車(白ナンバー)	自家用車(白ナンバー)
運転者	研修を受けたNPO等のボランティア	一般ドライバー(第一種免許)
利用者	移動困難者に限定	誰でも可
利用料金	実費(タクシーより安いことが多い)	市場価格(実質営業)
法的扱い	道路運送法第78条第2号	道路運送法第78条第3号
介助	介助あり	原則なし(介助は特別料金)
管理者	市町村・NPO・社協など	まずはタクシー事業者



池上まつり
8月24日(日)、池上まつりが開催され、はせさんずも模擬店を出店。猛暑のなか、参加している人に向けて「寄り道カフェ」を用意し、たすけあい活動や市民後見などを説明するコーナーを設けました。ヤングケアラー支援「つながる和」のボランティアも支援を拡げる広報を行いました。

支援ネットワーク

大田区支援ネットワークは介護事業を行う4法人を中心に設立された一般社団法人で、はせさんずは監事として、またコーディネーターの一人として活動に参加しています。

1 法人ではできない大田区全域に対する地域課題の解決にむけて活動を行うことを目的にしています。これまで①大田区総合事業の一つである「絆サービス」の立ち上げや担い手養成
現在は大田区社会福祉協議会に移管
②仕事と介護の両立支援事業
③家庭訪問型子育て支援事業「ホームスタート・おたのしみ」
(②、③は大田区委託事業)
などの活動実績があります。

介護離職しないために、どうすれば働きのながら介護することができると、研修会や個別相談会を開いて情報提供をします。また、企業の人事担当などを訪問して介護に対する理解を深めてもらいます。

初めての子育てに難しさを感じる母親を支援するために(ビジターと呼ばれる)ボランティアとともに家庭を訪問して、母親の話を聞いたり、一緒に食事作りをしたり、買物などの外出に同行したりします。

これから事業所間で連携して、この活動が地域の課題解決の一助になればと願っています。

事務局だより

デイホーム休業に伴い介護職の豊田奈々江さん、太田眞美さん、山下竜秀さん、他の非常勤介護職員や看護師、運転職、調理員の皆さんは7月末までに退職し、管理者の岡田香さんは8月に退職しました。

2026年版 カレンダー予約受付中

A4サイズ 1部700円

お申込は、事務局まで

写真は2025年版



はせさんず各部門スタッフより 聞いて! 聴いて!

会員制たすけあい活動

昨年初めて東京都シルバーパスを購入しました。以来、新たな場所はもちろん、通い慣れた場所へ行くにも、このパスだけで行ける経路を探す楽しみが増えました。経済的メリットはもちろんですが、新たな経路は景色が変わり、あたかも小旅行をしているかのように気持ちがりフレッシュする効果大です。住民税非課税以外の人の購入費用は今年安くなりました。未購入の方はぜひ試みてはいかがでしょうか。(高木清彦)

ヘルパーステーション

今年は戦後80年。時代は変わり日々発展してきました。介護も家族介護から地域介護(社会的介護)へと変わっています。しかし、これから超高齢社会で、ヘルパー不足時代になっていきます。住み慣れた場所で地域全体での介護は実現できるのでしょうか。今の状況では、私自身が高齢となり介護が必要になったときがとても不安です。将来のために何をすればよいのか一緒に考えましょう。(笹口文大)

ケアサポート

日本各地で自然災害は想像を超える勢い。過去、東日本大震災にはせさんずの一員として支援に参加したとき人間の無力さを痛感しました。最近では豪雨で呑川氾濫の注意報が出て、雨のたびに付近の人は心穏やかではないはず。私たちにできることは限りがあるかもしれませんが、まずはケアマネジャーとしてトリアージ(緊急時優先順位)をもとに一人暮らし利用者に安全確認を行える準備をしています。(鈴木敦子)

元気かい

はせさんず元気かいと寄り道カフェは、交流しながら運営されています。そこは、笑顔と楽しさがあふれる大切な空間。仲間とおしゃべりしながら、麻雀、俳句や脳トレを楽しみ、ときには一緒に歌ったり“元気たいそう”で体を動かしたり。日常に小さな笑いが加わることで、心も体も元気になる。ここでは年齢を忘れ、安心して自分らしくすごせる“第二の家”のような場所にしたいと、工夫を重ねています。(佐藤 悟)

ヤングケアラー支援

「つながる和。」の活動で子どもたちの悩みとつかないモヤモヤ、鬱屈の表出にふれると、その世界の小ささ、身動きのとれなさに驚かされる。家庭で、学校で、そんなにも気を張って生きている! 世界は、本当はもっと大きいし、あなたの思うように生きていけるよ、大人になれば。今はそこにとどまるしかないとしても。話をしながら、いくらかでもその子の枠・可能性を広げられたらと願っている。(小林恵子)